

令和7年度 国立市立国立第一小学校 学校経営方針

ver.令和7年4月1日

学校教育目標

「自分で考え 進んで活動する子」

○蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力

「力を合わせて 高め合う子」

○人を大切にする心や地域を愛する気持ちを表す行動力

「思いやり体を動かし 元気な子」

○心身の健康と自他の安全を目指す実践力

学校づくりのキーワード **人づくり 地域づくり 夢づくり** の実現に向けて

☆ほめて伸ばす 子供はもちろん、大人も

☆チーム一小 組織的な分掌 諸課題への対応 同僚性の強化

☆地域との連携 保護者・地域はチームの一員 とともに伝統の構築を

市や都の指針に基づいた校内体制の整備

○一人1台端末の日常化と「オンライン学習」へのアプローチ

- ・授業のツールとして、PCを日常的に使用していきます。
- ・いろいろな場面を想定して、Google Classroomの日常的活用をさらに推進します。
- ・「使う」から「使いこなす」に。そして、日常化の姿である「使うかどうかを各自が選択する」を目指します。

○働き方改革の推進

- ・校務支援ソフト等を活用して、校務の短縮やペーパーレスの会議を実践していきます。
- ・教職員の時間外在校時間を月4.5時間以内に設定します。保護者への理解と協力も啓発していきます。
- ・SSS(スクールサポートスタッフ)による校務支援の効果を、今年度も、さらに高めていきます。
- ・学校と保護者との電話連絡の時間を7:45~18:00にします。

○フルインクルーシブ教育の土台となる特別支援教育の推進

- ・特別支援学級「杉の子学級」との交流学習を、各学年でさらに充実させていきます。
- ・教室での学びを高めるために、特別支援教室「はばたき」での指導の共有を日常化させていきます。
- ・担任との協働を通して、SS(スマイリースタッフ)による教室での個別支援をさらに充実させていきます。
- ・校内委員会において、個に応じた適切な支援体制を考えて実施していきます。

一人一人がその子らしくいられる教育の充実

○一人一人のニーズと実態に合わせた教育活動の推進

- ・「はばたき」の指導を全ての教員が共有します。
- ・「SS」による学習支援を実態に応じて意図的に実施します。
- ・「子供と家庭の支援員」による居場所づくりや登校支援を積極的に展開します。
- ・「交流支援員」を積極的に活用して、杉の子学級の交流及び共同学習をさらに日常化させていきます。

○互いを尊重し合う人権教育の推進

- ・人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
- ・異学年交流、共同学習、校外における学習機会の中で、共に学び、互いのよさを認め合う友人関係を築いていきます。

地域と一体となって学校をつくる「コミュニティ・スクール」に向けた土台づくり

○コミュニティ・スクール化(令和8年度)を見据え、「チーム一小」のさらなる推進

- ・地域への参加と学校への参画をどちらも可能な範囲で実現していきます。
- ・地域の方を招聘した授業づくり、地域の自然や文化財を教材化し、「地域で学び、地域に還す教育」を推進します。

チーム一小 7つの取組

その1 校内研究を通じた学力向上・授業力向上・組織的な教育力の向上・授業の質的転換

- 市研究奨励校2年目 → 学び合う教員集団をさらに成熟させます。
- 教員一人一人の指導スキルの向上を目指した校内研究 → 「国語」「理科」「体育」を中心に据えた授業研究
- ゴールは「主体的で対話的な深い学び」 → 子供の学び合う姿が常に見える授業の実践
- 一人1台端末の学習での活用を全ての教員のツールに → 実践交流会の通じた校内研究

その2 みんなでやれば学力が伸びる 学力の向上=指導力の向上

- 「わけをそえて」「伝え合い」を授業スタイルの根幹に → 全ての授業で日常化を目指す。
- 基礎的知識や技能の習得 → 全クラスで計画的な宿題の実施。
- 各教科で問題解決型学習の実施 → 課題把握、自力解決、検討、まとめを意識した授業(絞って効果的に)
- 学級づくりは授業力の向上から → 望ましい学級経営、専科経営を目指して授業力で信頼関係を結ぶ。
- 国語・算数における基礎基本の定着を図る必達目標の設定 → 「スキルアップ」期間を活用した個別指導で確実な習熟を図る。
- 中・高学年における系統的な英語教育の充実 → 時間講師を活用した英語専科制による専門的指導の充実を図る。
- タイピングスキルの向上 → キーボード入力検定の取組を推進する。

その3 地域や保護者、学校を支えてくれる人とのつながりを「ふるさと谷保プロジェクト」としてカリキュラム化に

- 世界企業「ヤクルト」との授業交流 → 6年理科の発展として
- 城山「さとのいえ」との人・もの・場所の交流 → 稲作体験(5年)、自然散策(1年・2年)
- 谷保の自然と文化を教材化 → 年間を通じた「城山探検」「湧水の散策・観察」(3年)
- ASSの活用で学力向上 → 担任との連携でいわゆる「補習」への発展を
- 一小の児童中心の本町児童クラブと支え合う関係に → 連絡と連携の強化
- 一小ソフトのメンバー発掘 → PTAサークルのソフトボールへの協力・支援
- 目指すは三中生、そして、「幼・保・こ」との連携強化 → スムーズな連携を目指した「かけはしプログラム」の立案と試行
- 地域の方を招いた授業の実施 → 被曝体験、租税、薬育、人権、命の教育、谷保の自然や歴史 etc.
- コミュニティ・スクール化(令和8年度)に向けた準備 → 学校評議委員との、連携及び協働体制の強化
- 「ふるさと谷保」を見据えた谷保の魅力の共有を → 地域行事への参加促進、「天神太鼓」の取組、「ふるさと」歌唱等
- 地域の願い、地区の子供会の参加率向上への一助 → 夏休み前に、地区の行事への参加を声掛ける。

その4 体力向上を目指したこれまでの取組を確実に実行する。

- 体力テストで結果をだす。分析を生かす。 → 市の体育協会の指導の下、全学年で体力テストに備える。
- 日々の体育の授業とともに強化旬間を取り組む。 → 長なわ、短なわ、持久走を計画的に実施する。

その5 個を大切にすることで初めてできる集団、日々の徳育

- 「杉の子学級」との交流学級、交流学習 → 全ての学年で日々の連携。設置校ならではの相互交流の試行
- みんなが生き生きと生活する学級づくり → 学校生活満足度調査「Q-U」と構成的エンカウンターを活用
- 「ほめる」「できる」「ほめる」の連鎖 → ほめられるように指導、成功、ほめるの流れを教師がつくる。
- 互いを尊重し合う人権教育の推進 → 人権課題を知る機会を各学年に位置付ける。
- 生命尊重の授業を全学年で実施 → 命の教育、いじめ撲滅を旗印とした道徳授業を実施する。
- 「はばたき」による個別の指導を生かした日常の実践 → 各学級での指導や日常的な声かけに生かす。
- SS(スマイリースタッフ)による支援の協働 → 特別支援教育コーディネーターを中心に担任とSSの連携を推進
- がんばりをみんなでたたえる雰囲気 → 月に一度、全校朝会で定期的に賞状を紹介する。
- 「幼・保・こ」の園児との交流の促進 → 教職員の相互交流の推進と子供の交流を推進する。

その6 児童主体の教育活動の充実

- 児童のアイデアを生かした学校行事 → 児童の願いを形にできる体育的行事や文化的行事の推進
- 児童の主体性を伸ばす委員会・クラブ活動 → 「みんなでつくる」「みんなのための」委員会・クラブ活動
- 移動教室・野外体験・遠足・校外学習 → 異学年交流や共同学習における交流の成果が発揮される機会に
- 児童が継承していく「自慢の一小」 → 自ら「あいさつ」をみんなで。きれいな学校をみんなで。
- 児童主体の教育活動(学校行事、特別活動)の充実 → 児童のよりよい社会性や豊かな人間関係の構築を図る。
- 異学年交流(にこにこ活動班)を活用した教育活動の充実 → 上級生の取組の様子から下級生が学べる機会を充実させる。

その7 安心・安全の実現

- 全ての教員で、朝の児童の登校を迎える。 → 教室で迎える。玄関で迎える。校門で迎える。
- みんなで見守り「おかえりなさいの日」 → 毎月1日実施。PTAの発案を、保護者、地域に広げていく。
- みんなでつくる安全の登下校 → 地域協力者と保護者ボランティアによる持続可能な体制づくり
- いじめ未然防止、早期発見、早期対応 → 報連相で「いじめ対策委員会」の早期開催、早期対応
- 「Q-U」を活用した健全な学級経営、毎日の声かけ → 構成的グループエンカウンターを活用した魅力ある学校づくり
- 一人一人のニーズや不安に寄り添う支援体制と環境整備 → 「家庭と子供の支援員」「オンライン授業」を活用した登校支援
- 避難訓練、防災体験、学校危機管理マニュアルの随時見直し → 6年間を通じた計画的な実施と、地域と連携した防災訓練